

環境科学概論		非常勤講師 新井 健司	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科 の教養選択科目	科目ナンバリング	22200117

1. 授業のねらい・概要

今日、環境問題が報道されない日はないと言ってもよいほど、私たちの周辺には「環境」の話題が溢れている。特に近年複雑化かつ多様化を強める地球環境問題は、原因や発生のメカニズムの解明から対策まで多くの困難を抱えている。この授業では、さまざまな環境問題の歴史と現状および対策について解説する。深刻な環境破壊の実態と改善の重要性を認識し、地球環境を良好な状態で子孫に伝えるために必要なことを考える契機としたい。

2. 授業の進め方

講義型の授業ではあるが、受講生が考える時間をとりながら進める。AV機器を活用し、写真や各種のデータ資料等を画面上で提示しながら、視覚的に理解しやすいようにする。

3. 授業計画

1. 人間の文明と環境問題	9. 野生生物の減少（1）（生態系の破壊）
2. 宇宙のごみ問題・オゾン層の破壊	10. 野生生物の減少（2）（生物多様性の保全）
3. 地球温暖化（1）（歴史と原因）	11. 外来種問題・クジラ問題
4. 地球温暖化（2）（影響と対策）	12. 資源とエネルギー問題
5. 大気汚染と酸性雨	13. 原発事故と放射能汚染
6. 河川と湖沼の汚染	14. 開発と災害
7. 海洋汚染	15. 地球環境の保全に向けて
8. 森林の減少・熱帯林の破壊・砂漠化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

今回のテーマについて、参考書や新聞などで調べて予備知識を持っていくと理解しやすい（約1時間）。また、各テーマは相互に関連があるため、授業後は既習内容との関係を確認しながら復習しておくこと（約1時間）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験では終了後に正解を公表し、各自で見直してもらう。

6. 授業における学修の到達目標

環境問題として、今どのようなことが問題になっているのか、過去の経験を活かしてどのような対策を立てればよいのかなどの課題について、受講生自身が考察できる力を身に付けることを目標にする。

7. 成績評価の方法・基準

試験（80%）、受講態度（20%）をもとに、成績評価を行う。

8. テキスト・参考文献

テキストは指定しない。

9. 受講上の留意事項

受講上の規則・マナーを守ること。授業中には、ノートを取りながら理解することが必要である。授業内容に関して生じた疑問点は、終了後に自分で調べたり、担当教員に質問する方法で解決するように。